

2020年1月10日

青山学院大学経済研究所講演会

【題目】 「イエール大学における日本文化教育 ——美術を媒介に ——」

【講演者】 大木貞子氏（イエール大学美術館アジア部門日本美術キュレーター：The Japan Foundation Associate Curator of Japanese Art）

【日時】 2020年2月27日（木）14:00～15:30

【場所】 青山学院大学青山キャンパス 17号館17306教室 （[参加費用] 無料）

【講演概要】 イエール大学を簡略に紹介後、過去20年間に渡るイエール大学付属美術館（Yale University Art Gallery）における日本美術紹介の実態を講義する。本美術館アジア美術部には、日本美術は中国美術と同数あるが、質はかなり落ちる。1999年にはアジア部6,000点（中国三分の一・日本三分の一・その他）、現在は8,000点以上所蔵。1999年にイエール美術館での仕事が確定した際ショックだったのは、日本の書の中で展示しても良いと思われるものはわずか2点しかなかった事である。奮起し、質の向上を図り、2005年に日本美術専門のキュレーター職が初めて基金（endowment）持ちで設置された。背景に、イエール大学東アジア研究所（CEAS）の資金援助推進、日本文学・美術専門の教授の先導、美術館館長が基金集めに長けアジア部の必要性を理解、理事の中で日本美術の収集家がいて先導していただいた等があった。

仕事は大きく分けて三つある。教授多くは補佐、美術品購入と調査、展覧とカタログ作成である。授業は幅広く日本文学・美術史・日本史・建築・ジェンダー学等である。年二回の常設展以外に特別展とそれに付属する企画を行う。今までの特別展は『茶の旅路』（2009年）、『屏風の煌き展』（三回に分け「詩と物語」「筆と墨」「自然と祭礼」2014年）、『摺物の私的世界』（2019年12月から2020年5月）等である。

美術は雲の上の分野で美しいものを扱っているという概念だが、実態は日本経済と直結している。本大学美術館は小規模であっても、水準の高いものを見せるよう努力している。

【講師 大木貞子氏（Dr. Sadako Ohki）略歴】 青山学院大学文学部英米文学科卒業。ミシガン大学大学院博士課程修了（Ph.D.in History of Art. Dissertation: “Ike Taiga’s *Karayō* Calligraphy”）。コーネル大学講師（日本美術）、コロンビア大学日本中世研究所副所長等を経て、1999年よりイエール大学美術館で日本美術専門のキュレーターを務める。日本美術に関する著書・論文・展覧会カタログ等多数。

プロジェクト「アメリカ合衆国における日本文化・日系アメリカ文化」代表 金田由紀子

協力 青山学院大学英米文学科同窓会

連絡先 金田由紀子（E-mail）t20704@aoyamagakuin.jp